

★今週の聖句

「婦人よ、あなたの信仰は立派だ。あなたの願いどおりになるように」

マタイによる福音書 15章28節

★ ねらい

・イエスさまが評価した「信仰」とはなんだろうか？子どもたちと一緒に考えてみたい。注意したいのは、「熱心さ」を信仰と理解しがちだが、そうではなく、何もないところに、信仰が与えられる理解をもって臨みたい。さもないと、信仰も、「熱心」という行いで勝ち取るものになってしまうことに注意したい。

★ 説教作成のヒント

・「神さま」は、誰に対しても、分け隔てなく「救い」を求める者に、「救い」を与えるという理解をもって、この女はイエスさまに接していく。「救い」だけをイエスさまに願って。

★ 豆知識

・「立派」とは、「偉大だ」とか、「ほんものだ」とかいった意味だろう。神（主体）が、その信仰を義と認めたことを心に留めたい。

★ 説教

・カナンの女はイエスさまに自分の娘を生かしてくださいと言って、こう言いました。「主よ、ダビデの子よ、わたしを憐れんでください。娘が悪霊にひどく苦しめられています。」心に苦しみを持つ娘をその母親は、切に癒されるのを願いました。このカナンの女がどのくらい心の底からだったのかを知る手がかりは、聖書には「叫んだ」と記されています。

弟子たちはカナンの女の訴えを退けようとします。弟子たちはイエスさまに「この女を追い払ってください。叫びながらついて来ますので。」といいました。イエスさまもこのように拒絶の言葉をおっしゃいました。「わたしは、イスラエルの家の失われた羊のところには遣わされていない」と。カナンの女はイエスさまに期待をかけていたので、その失望は大きなものだったのでしょうか。しかしカナンの女はイエスさまにまた訴えます。「主よ、どうかお助けください。」

カナンの女はこのように切実な心で頼りました。しかしイエスさまは彼女の心を踏み付けるようにおっしゃいました。この女をほかでもない「小犬」にたとえておっしゃったのです。「子供たちのパンを取って小犬にやってはいけません。」

しかし、カナンの女はイエスさまのこの言葉にも動じませんでした。かえって機転を働かせて答えます。

「主よ、ごもつともです。しかし、小犬も主人の食卓から落ちるパン屑はいただくのです。」彼女のこの答えは「主が与えてくださる祝福は大きくて多いから、失われた羊を祝福しても十分残っている」と考えているのです。

私たちに、辛い事や、苦しみにあいます。その時ごとに私たちは、お祈りします。しかしそのお祈りに対する応答がないと感じられる時が多いです。この瞬間が、カナンの女がイエスさまの受け入れない言葉に向き合った瞬間だったのです。イエスさまの侮辱的ともとれる言葉に「娘を助けてください」と言う訴えをやめて帰ってしまいたかった瞬間です。

でも、イエスさまは断る方ではありません。聖書のどこにも、イエスさまがご自分の民のお祈りを断ったという言葉はありません。そして私たちのお祈りに決して沈黙なさいません。イエスさまは「時」を待っていらっしゃるのです。そして私たちの信仰を待っていらっしゃるのです。私たちがイエスさまを心から本当に信じたら、子犬にたとえられたイエスさまの言葉は、もはや侮辱ではありません。それは私たちを信仰に導くためのみ言葉です。

神さまはすべてのものをご存知です。私たちの苦しい心、恨めしい心まで。しかし時を待っている方です。それは私たちの信仰の時です。その時まで私たちの痛みと苦しみが深くなることもありえます。しかし神さまはその「神さまの時」、「信仰の時」になればすべてのことを聞いてくださいます。そしてそ

の時、私たちがいただくようになる恵みは何ものにも代えることができない大きい恵みです。カナンの子が神さまの恵みを受けることができたのはまさにこのためです。彼女は祈りを中断しなかったのです。信仰を持ってイエスさまの前に立ち向かったのです。イエスさまはこのような信仰を喜ばれます。「婦人よ、あなたの信仰は立派だ。あなたの願いどおりになるように。」
皆さん、私たちがこのカナンの子がいただいた恵みを、共に受けられますようにお祈りしましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□ 120番

□ 改訂129番

やってみよう

机の下に綺麗な紙を敷いてちぎったパンを子供の数ほど置いて置く。

- 1、 みんな犬になって机の下で手を使わないでパンを食べてみましょう。
- 2、 こんどは机の廻りに椅子を置いてきちんと座りましょう。
- 3、 一人一人の前にパンの入ったお皿を置いてみんなでいただきます。

みんなどっちの食べ方が美味しいと思った？

机の下で食べるのもちょっと面白いけど、毎日この食べ方だったらどう？

今日はわざわざパンを机の下に置いたけど、もし誰かが食べてこぼしたパンだったらどう？たべたいと思う？

パンは目に見えるけど、今日出て来たカナンの子の人が欲しかったのはパンじゃなく、子供の病気を治して欲しかったのです。目に見えないイエスさまの力、恵み、愛、が欲しかったのです。でもイエスさまはカナンの子の人がイスラエルの人じゃないから「イスラエルの人＝子供、のパンをとってカナンの人、外国の人＝子犬、にあげるのはよくない。と言っておられます。

女の子はなんて言った？聖書を見ると「しかし、子犬も主人の食卓から落ちるパン屑はいただくのです」今誰か、机の下にこぼれたパンは食べたくない、って言ったね。このカナンの子の子はこぼれたものでも良いから、子供がこぼしたお恵みでも良いから下さい。とお願いしました。なんとかして病気の子供を治して欲しいと言う気持ち、そしてイエスさまなら治して下さいと、イエスさまのお力を信じて言ったのです。28節をみんなで読んでみましょう。

話してみよう

・祈りと願いは、近い関係にあるだろう。それぞれの祈りも、願いも、小さな紙に書き出してみるのはどうだろうか。もちろん、本音は書けないかもしれない。しかし、それは、承知することとして、書き出した紙の中で、出てくるのは、願いや希望かもしれないが、みんなで、祈りだとか願いだとか、希望というものについて、共有し、話し合い、気づく手掛かりにできるだろう。信仰は、神さまと関係していることを気づきたい。

★今週の聖句

「あなたはメシア、生ける神の子です」

マタイによる福音書 16章16節

★ ねらい

・子どもたちも、イエスさまを、日常生活において、どのようにとらえるのかという問いに立たされている。これはまさに、子どもたちの「信仰理解」による、生活の在り方を考える機会になろう。

★ 説教作成のヒント

・一般論としてイエスさまを、どうとらえるかではなく、イエスさま自身が、「あなたはどう私を見ているのか」という問いであることを忘れないようにしたい。

★ 豆知識

・「メシア」=救い主。教会は、この「あなたはメシア、生ける神の子です」という信仰告白の上に立てられるというイエスのことばが昔から理解されてきた。使徒信条をもう一度、読み返していただきたい。ペテロ=岩の意。

★ 説教

イエスさまは、フィリポ・カイサリア地方に行ったとき、弟子たちに、「人々は、人の子のことを何者だと言っているか」とお尋ねになりました。弟子たちが答えました。『洗礼者ヨハネだ』と言う人も、『エリヤだ』と言う人もいます。ほかに、『エレミヤだ』とか、『預言者の一人だ』と言う人もいます。」と答えました。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」と質問されました。

他の人がどのように見るかではなく、皆さん一人一人に『あなたがたは』どう思うかと言われたのです。そして、シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えたのです。私たちにも、弟子たちの場合と同様に、『それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか』という、イエスさまからの質問があります。

歴史の中では、これまでも、いろんな立場、いろんな考えから、いろんな答えを言う人があります。「イエスはえらい教えを広めた人である」「イエスは革命家である」「イエスは体制と闘って死んでいった人である」その中には、「イエスは敗北した預言者である」というものさえあります。しかし、イエスさまが私たちに求めておられる答えは一つです。その答えは、ペトロの言った「あなたこそメシア・キリストです」というものです。

「あなたこそメシア・キリストです」この短い言葉は、信仰の告白と言います。教会は、この信仰告白に立つ人たちの群れのことであり、建物を指すではありません。その一人一人がキリスト者（クリスチャン）なのです。

このペトロの信仰告白は、ペトロの心からの真実さがありました。

私たちの日常の生活では、神さまのことや、イエスさまのことが出てきません。しかし、「あなたは どう思うか」というイエスさまの問いかけをまじめに受け止め、それに真実さをもって答えようとしているかということなのです。

「信じられない」という答えが、イエスさまの問いに対して精一杯の答えであるならば、それはそれで、イエスさまもまた真剣に受け止めてくださるはずなのです。

一番悪いのは、心がそこにあるということ。いくら正しい信仰告白をしても、心がそこになく、口先だけでイエスさまにお答えしているということほど、イエスさまの真剣な愛に対して悲し

ませることはありません。皆さんも礼拝で「使徒信条」を唱和するときがありましたら、ぜひ、なんと知っているのかを心に留めて、よくよく考えてくださいますようお願いいたします。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

6 7 番

改訂 5 3 番

やってみよう

イエスさまは色々なところで病気の人を治したり、沢山のの人にパンを食べさせたりされました。そこで人々はイエスさまのことを「洗礼者ヨハネ」だとか「エリヤ」とか「エレミヤ」と言う予言者だとか、また別の「予言者の一人だ」とか色々知っている偉い人の名前を言って噂をしていました。

そんな時、イエスさまは「あなたはわたしを誰というか」とペトロさんに聞かれました。

では今から私がみんなに聞きますよ。

- 1、 ○印のカードと ×印のカードを子供達に配りそれぞれ両手に○と×のカードを持たせる
- 2、 教師は「じゃあ聞くよ、私が正しい答えを言ったら○のカードを持っている手を上に上げてね。間違いの答えを言ったら×のカードを持っている手を上げて下さい。
- 3、 ではききますよ。私が言ったらすぐに○か×のカードを上にあげてね

イエスさまは、,,,,,, (とここで長く引っ張って) エリヤ!

イエスさまは、,,,,,, 予言者!

イエスさまは、,,,,,, メシヤ!

と色々な名前を言って手を上げさせる。テンポを速くしたり、最初を長くひっぱって紛らわしくしてみたりする。

では最後にみんなで言ってみましょう

「あなたはメシア、生ける神の子です」

話してみよう

手立て

お母さんでも、お父さんでも、身近な人の絵を描いてみたらどうだろうか。そして、その絵の人を、どのようにとらえているかを説明し、その理解するところを分かち合ってみよう。

その目当て

その説明をする中で、自分がどのようにその人とらえているかに気づく。そこから発展的に、では、イエスさまについては、私たちはどうだろうか。そして、どのように、私たちに伝えているのかを考えたい。加えて、神さまが、わたしに隣人に対してどのように望んでおられるのかを考えることもできようか。

・少し高学年ならば、「使徒信条」を一緒に考えてもよいかもしれない。使徒信条は、どのように神を、イエスさまを、聖霊を理解しているかを知る機会になるかもしれない。

★今週の聖句

「わたしの名のためにこのような一人の子供を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである」	マタイによる福音書 18章5節
---	-----------------

★ ねらい

・イエスさまが話す、受け入れるようにと求めた「幼な子」「小さき者」とは、一般的・社会的な弱者ではない。「迷える羊」の例でもあるようにこれまで聖書の中で示されてきた存在について考えてみたい。

★ 説教作成のヒント

・「わたしの名のために」というのは、「イエスさまのゆえに」、受け入れるのであり、いわば、自然な情で受け入れるのではなく、理性的であり、信仰の行いの原点・出発点を私たちに確認させるのである。

★ 豆知識

・人間はどうしても、自分の「位」、自分の地位を求め、確認しようとする。「偉くなりたいと思う者は、・・・」(マタイ 20:26) どうしたらいいのか考えてみよう。

★ 説教

・イエスさまの弟子たちは、旅の途中で「途中でだれがいちばん偉いか」と議論し合っていました。「偉い」とかいう言葉は、皆さんも友達とのやり取りで話をし、使うでしょう。そんな自分の地位や評価についての言い争いに、気を取られて、自分が上にのし上がっていくことが、弟子たちにとって、大きな関心ごとでした。

そんな弟子たちの心の向きを思いながら、イエスさまはひとりの子どもを抱き上げたのでした。

なぜ、「子ども」のことを例えて言うのでしょうか。

今も中東やアフリカの国では、戦争があり、お父さんや小さな少年までも、戦場に駆り出されています。戦争が起こった結果は、戦争をした国々にとって喜びや心の安らぎはありません。家族を失った人々が増え、怒りや憎しみがたくわえられます。テレビで、戦争から逃れてきた人々が、食料や薬、ゆっくりと眠る場所を求めている難民キャンプを見たことはありませんか。そして、その真っ先に犠牲になるのは、子どもや女性です。

ここでイエスさまが抱き上げられた子どもは、“飢餓・戦争・病気・社会混乱”の最中に置かれていた一人です。子どもとは、この世の悲惨な状況の被害を最も顕著に受ける存在ではないでしょうか。そんな子どもを、ここでイエスさまは抱き上げられ、「わたしの名のためにこのような子どもの一人を受け入れる」ことを求められたのです。

誰が最も大きいのか、誰が一番かと、仲間内でそんなことにだけ心を傾け、自分たちのエネルギーを割き・注いで、周囲の現実を見ようともしていない弟子たちでした。そんな弟子たちへの実に厳しい批判が、「わたしの名のためにこのような子供の一人を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである」との、語りかけから響いてくるように感じます。

「子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された」とあります。イエスさまは、ただ手を置かれたのではありません。抱き上げて祝福されたのです。子供たちは、イエスさまのもとに連れてこられました。そして、されるがままに、イエスさまの手に抱き上げられたのです。そこにイエスさまの祝福が与えられたのです。私たちが 全く無力な所において、イエスさまは救いの御業を行って下さっているのです。イエスさまが世に来て下さり、十字架に架かれたというのは、イエスさまが私たちが何も出来ない所で、私たちの罪を引き受けてくださり、私たちに代わって死んで、救いを成し遂げてくださったことを意味しています。私たちは自らの罪に対しては力を持たない者です。私たちが、自分が持っている力や、財産、人に誇ることが出来る歩みを主張するところではなく、子どものように、何も出来ずただ、与えられるものを受け入れることしか出来ない所に、罪の赦しとい

うイエスさまの救いもたらされるのです。「子どものように神の国を受け入れるとは」、神の助けなしには、イエスさまの愛なくしては、自らの罪を前にして、自分自身で自分を救う手立てをまったくもたない、無力で弱い存在として、神の前に自らを差し出す者となるということにはほかなりません。そのような者のためにこそ、イエスさまの十字架があるのです。

私たちは自分の持っているものによって救いを得ようとしている時、イエスさまのもとにやっ来てても、そこを立ち去ってしまいます。イエスさまの側にいることで、自らを誇ろうとする時、イエスさまのもとに連れてこられる者の妨げとなってしまうことがあります。自分を頼って、神さまの豊かな救いを価値あるものとしなないでいるのです。ただ、連れてこられる一人の子どものように、自らの罪に満ちた歩みの前で何も出来ずに、この方に委ねる時、祝福と共に、十字架で死んで下さったイエス・キリストの救いが与えられるのです。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

58番

改訂17番

やってみよう

1. こどもの数だけ椅子を並べる。
2. 小学生の場合 椅子に1点〜から順に点数を書いて置く
3. 幼児の場合、王様、お姫様、家来、料理人、子供、などの絵を描いて椅子の背中に貼って置く。
4. 教師は楽器を弾くか、タンバリンや太鼓を叩いてこどもは椅子の廻りを歩く。
5. 音が止まったらこどもは急いで好きな椅子に座る。
6. 何度か繰り返して遊ぶ。
小学生の場合は自分が座った椅子の点数を足していても良い。
7. 何度か遊んだ後で、点数の一番多かった人。王様に何度なった？お姫様に何度なった？と聞いてみる。

点数が一番多かった人が一番偉いと思う人？

王様になった人が偉いと思う人？などみんなで話してみる。

お弟子さんが「天国で一番偉いのは誰ですか」と聞いた時、イエスさまはなんとお答えになったでしょう。

イエスさまは 「こどものようになる人が天国では一番偉い」といわれました。

話してみよう

・「一人が欠けてはならない」「一人を受け入れること」を体験してみよう。
その体験を通して、神さまが望んでいることであり、喜ばせる理解を、子どもたちと共有してみよう。

例：1) 円になってから、ゆっくりと、膝をかがめて後ろの人の膝に座る

2) 円になって相手の背中を支え合ってみよう。

信頼していないとできないのであり、心を打ち解け合わせるアイスブレイクでもある。

教師らは創造的に行う事をしてよいだろう。

★今週の聖句

「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」
マタイによる福音書 18章20節

★ねらい

・子どもたちの日常も、互いに、過ちや失敗をしてしまって、心を痛めるようなことがあったりするかも知れない。しかし、そんな色々な思いを抱えながら、私たちはこの場で互いの思いを重ね合わせながら、主を呼び求めていく。

★説教作成のヒント

・「罪」を指摘することが起こるかもしれない。日常生活は、問題だらけかもしれない。心を重ね合わせながら主を呼び求めながら、イエスさまの名前によって共に集っている状況を踏まえたい。

★豆知識

・教会は、見える建物を意味しない。イエス・キリストというお名前によって集められた群れである。

★説教

・教会では、いつも「お祈り」をしますね。

皆さん、この「お祈り」は、苦しみにあった時に、困難な出来事があった時に、悲しみの中にある時によくしますが、喜びの時にも、物事がうまくいっている時にも、祈るようにしてほしいと思います。つまり、いつでも、どんな時にでも、という事です。そして、私たちは、誰に向かってするのかと言いますと、それは、神さまに向かってです。

イエスさまは、私たちと神さまを「つなぐもの」として「お祈り」のことについてお話してくださいました。この神さまとの祈りを通して、まさに天と地はつなげられる大きなパイプとなります。

「お祈り」を通して、しっかりと神さまに結ばれている心は、平安です。そして、ちょっとしたことにも動かされないでしょう。

私たちも、イエスさまのように、広い心を持ちたいのですが、なかなかできません。でも、こうおっしゃいました。「私たちがその人の罪を赦さないなら、天の神さまもその人の罪を赦さない」と。そして、「私たちがその人の罪の鎖を解いてあげるなら、つまり、私たちがこの世でその人の罪を赦すなら、天の神さまも赦される」ということを言われました。私たちの二、三人の祈りの集まりに、神さまに心を向ける、その大きな力を、この地上の教会に、そして与えられていると言うのです。

祈りの声が空しく響くようであっても、無力に思えたりするようなことがあっても、お祈りを神さまが聞いておられるのだろうか、疑いたくなるような時であっても、祈りの声は聞かれており、神さまの耳に届いているのです。

この「イエスキリストの名」によって集まっているところ、すなわち教会に、神さまの国での力が与えられているのです。

そして、さらに「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」と言われました。教会は、心をつつにしてあつまる場所であり、それはイエス・キリストのお名前によって集まる場所です。

たとえ、二人または三人の集まりで、それを教会と言います。教会は、立派な建物を指すのではなく、祈りをする人々の集まりのことです。

この罪に満ちた暗い争いの絶えない地上で、共に集まって、一つの心になって祈りあうために私たちは、教会へ、子どもたちの集まりへと召し出されました。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

97番

改訂18番

Thuma Mina① 3番

(Thuma Mina は、つかわしてください という意味の賛美歌で日本基督教団出版の世界からの賛美歌集)。詳細(日本基督教団 web サイト) : <http://bp-uccj.jp/publications/book/4818405272/>

やってみよう

イエスさまは、二人または3人が私の名によって集まるところには、私もその中にいる、と言われました。

- 1、今から私がイエスさまになります、とイエスさまのお面をかぶる、または白い布を肩から斜めに掛けても良い。
- 2、いつも歌っているお祈りの歌(主の祈り=こどもさんびか21、小さいおててを組み合わせ、など)を歌いながら自由に歩く。
- 3、教師は歌の区切りがついたところで「二人」とか「三人」とか言う。
こどもは教師が言った人数で手をつないで座る。
一番速く座ったグループの真ん中にイエスさまが入る。
何度か人数を変えて繰り返して遊ぶ。

話してみよう

・実際に、2人または3人と、そして、多人数で集ってみよう。話し合うこともいいし、祈りをしてもいい。2人・3人と多人数は、違うことを体験するだろう。特に、祈りやたすけや支えが、一人では、できないものであることを確認しあったら、よい分級になることだろう。(教師一人一人が、子どもの様子をつかみ、組み合わせしてみるのも工夫かも知れない)

・讃美歌を歌うことも、一つの取り組みも知れない。ハーモニーは、誰かがいないと、できないことで、独唱はあるが、共に歌うことは、相手があって初めてできることだから。歌う前には、この聖句を十分説明しておきたいし、この集まりの中にイエスさまがいることを伝えたい。